

橈骨遠位端骨折に関する研究

橈骨遠位端関節内骨折の掌側ロッキングプレート固定術後の前腕回旋運動の開始時期

1. 研究の対象

2014年9月から5年間に当院整形外科にて橈骨遠位端骨折と診断され、手術後当院でのリハビリテーションを半年以上受けた方。

2. 研究目的・方法

本研究の目的：橈骨遠位端骨折における掌側ロッキングプレート固定術後は強固な内固から早期からの積極的な関節可動域訓練を行っている施設が多い。一方、尺骨茎状突起骨折や三角線維軟骨複合体(TFCC)損傷を高率に合併するため、骨折が治癒しても手関節尺側部痛が残存する例も多い。当院では、TFCCを中心とする手関節尺側部支持組織の修復が手関節尺側部痛の予防に重要と考え、術後8週までは前腕の回旋運動はできるだけ避けるように指導し、関節可動域訓練も行っていない。本研究の目的は、橈骨遠位端関節内骨折術後の前腕回旋可動域、手関節尺側部痛、遠位橈尺関節(DRUJ)不安定性を調査し、早期前腕回旋可動域訓練の必要性を明らかとすることである。

研究期間：実施許可日から2025年3月31日まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

カルテ情報：年齢、性別、受傷原因、骨折の型、単純X-P所見、尺骨茎状突起の骨折、三角線維複合体の損傷の有無、遠位橈尺関節の不安定性の有無、手関節尺側部痛の有無、受傷前のADLおよび活動量 等

臨床評価項目：術後6週、3か月、6か月、1年間の定期的な評価

自動関節可動域：回内、回外、伸展、屈曲の健側比(%)

握力：健側比(%)

DASHスコア、PRWEスコア：平均値±標準偏差

手関節尺側部痛

DRUJの不安定性

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

資料 3

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者：

川崎市立川崎病院リハビリテーション科 久永希

住所：神奈川県川崎市川崎区新川通 12-1

電話：044 - 233 - 5521（代）

-----以上